

日本長老教会設立 30 周年記念宣言

私たち「日本長老教会」は、1993年5月3日、三位一体の神の摂理に導かれ、「みな一つとなるため」（ヨハネの福音書 17 章 21 節）と祈られた主のみこころにこたえて歩み始めました。教会は、神がその栄光をあらわし、ご自身との交わりを喜び楽しむ聖徒として集められた神の民です。この教会は、天地創造以来各時代に救いと真理の知識を受け伝えて永遠に至り、また、見える教会として歴史の中にあらわれます。私たちはその一つとして、30年の歩みを導かれたことを心から感謝し、主の御名をあげ、神のみに栄光を帰す思いにあふれます。

日本長老教会は、日本基督長老教会と日本福音長老教会の合同により設立されました。源流となったこの2つの教会は、初代教会から宗教改革を経て、20世紀初頭の米国における根本主義と自由主義の論争を通して再確認された改革主義信仰に立つ長老教会であるという、共通のルーツを持っています。日本長老教会は、①ウェストミンスター信仰基準に集約されている正統的で厳正な改革主義信仰を継承し、②政治的・経済的に独立自治の精神に立ち、③教会の主が旧新約聖書に明示している長老政治を実践する、という3つの原則の元に設立されました。神の誤りなきことばである旧新約聖書のみを信仰と生活における最終的な権威として、反キリストの勢力に立ち向かい、聖潔なキリスト者生活と、みことばと善き業による国内外での積極的な宣教を目指してきました。その志を与えられ、また導かれたことは、ただただ聖霊なる神の御業と感謝するほかありません。

この30年の間、教勢の面においては6中会(2倍)、67教会(1.6倍)、会員数4367(1.6倍)に増加拡大しています。宣教の広がりには関東、中部、関西、四国に加えて東北に及び、現在、国外に向けては6名の宣教師が送り出されています。福音的な立場に立つ神学校を通じての牧師養成、憲法総則・政治基準各則および細則・礼拝指針・訓練規定の制定による憲法の完備、その他各種教会法や式文の整備、伝道者支援基金の創設、大会の宗教法人格取得などに、教会として取り組み、宣教の基盤を強化しました。「長老職全般についての答申及び聖書的根拠」、「戦争に関する公式見解」、「ウェストミンスター信仰告白第23章および第31章の現代における意義」などを通じて、現代における私たちの信仰的な立場を表明しました。また大会の活動としては、全国青年カンファレンス、全国修養会、広報誌「プレスビテリアン」の発行などによって、交わりと学びの推進に取り組みました。中会や地区教会でも、キャンプ伝道や子ども伝道、給食伝道、子ども食堂、メディカルカフェ、高齢者クラブなど、時代と地域の必要に応じたさまざまな働きが行われました。

しかしながら、これらの宣教の働きにもかかわらず、私たちが置かれている世界、ことに日本社会に目を転じると、外面的には「足りないものは何もないと言っている」（ヨハネの黙示録 3 章 17 節）ものの、内的な喪失感が蔓延し、人々は「羊飼いのいない羊の群れのように、弱り果てて倒れて」（マタイの福音書 9 章 36 節）います。イデオロギー全般に対する不信の結果、人々は信じるべき指針を見失う一方、国家神道体制の復活を試みんとする働きの高まりなど異教的勢力による福音への圧迫が増大しています。世の人々は、個人や家庭における幸福を希求しつつも、原罪がもたらす道徳的腐敗や家庭内虐待などによる家庭崩壊の困難に直面しています。環境問題や原子力発電所事故を契機として科学技術を過信してきたこれまでの歩みへの反省が進む一方、社会は迷走を続けています。さらに自然災害やパンデミックなどの外的な脅威や戦争などから生まれる不安と無力感が世界を覆っています。

また教会に目を向けると、20世紀後半には自由主義神学を奉ずる教会で啓蒙主義や政治活動の流れに

乗ることで時代を切り開こうとする動きがあり、混迷が続いています。一方、福音派と呼ばれる教会にあっても、聖書観の流動化やこの世との迎合により、歴史的・正統的信仰を見失う危機が近づいています。日本長老教会でも、洗礼数や教会学校など教勢の面における鈍化・後退がありました。

このような現状にあっても私たちは、イエス・キリストがすでに世に勝ち、神の国が始まっていることを確信します。

私たちは、一人ひとりがまことにキリストのしもべであるという自覚を持ち、祈りを深めます。それを通して、福音の立証と宣教を通して人々がイエス・キリストへの信仰へと導かれ、罪の赦しとたましいの救いに与り、キリストに似るものとして成長して、神の支配がこの世の全領域に及ぶことを求めます。

私たちは、みことばに基づく礼拝を徹底し、改革主義信仰に基づいた宣教を推し進め、新たな教会開拓に取り組めます。また、聖潔なキリスト者生活による証しの領域拡大と深化のために教職および信徒全体に対する神学教育システムのさらなる拡充に努めます。

私たちは、救われる者やクリスチャン・ホームの増加、契約の子らの信仰継承、新たな献身者が与えられることを祈り求めます。

私たちは、ウェストミンスター信仰基準に立つという原点を思い起こし、歴史的・正統的信仰を個人の生活のすべての基盤として、同性間結婚に見られる道徳観の多様化や環境問題など21世紀における諸課題に聖書的に取り組めます。

私たちは、社会的弱者に対する地区教会の取り組みを励まします。

私たちは、天皇を神として引き起こしたかつての戦争に多くの教会が加担したことへの反省に立ち、欲望や憎しみの連鎖の果てに起こる全ての侵略戦争に反対し、世界平和を希求します。

私たちは、全世界に広がる宣教の畑を自覚し、他教会・他団体とも協力しながら、宣教と教会設立に関わる宣教師を派遣・支援することで世界宣教に貢献します。

私たちは、聖書を信仰と知識と生活の最終的な基準とする国内外の群れと、神学的な貢献を含めて一層親密な交わりを保ち育てます。

私たちは、この終わりの時代にあって、罪人であることと自らの限界とを自覚し、互いの意見に心を開いて傾聴し、批判的に検討し合い、学び、祈りつつ、愛において全ての事がらに取り組んでいきます。

「永遠の契約の血による羊の大牧者、私たちの主イエスを、死者の中から導き出された平和の神が、あらゆる良いものをもって、あなたがたを整え、みこころを行わせてくださいますように。また、御前でみこころにかなうことを、イエス・キリストを通して、私たちのうちに行ってくださいますように。栄光が世々限りなくイエス・キリストにありますように。アーメン。」（ヘブル人への手紙 13章 20、21節）

2023年5月3日 日本長老教会設立 30周年記念大会

引用した聖書箇所は全て
聖書 新改訳 2017 ©2017 新日本聖書刊行会
によります。